

☆みつけ☆

商工会通信 2013年2月

見附商工会 見附市本町1-4-41 TEL 62-1365 FAX 63-1656
今町支所 見附市今町1-20-16 TEL 66-2267 FAX 66-2998
ホームページアドレス <http://www.mitsuke.or.jp/>



見附商工会新春企業交流会

総勢220名の参加により盛大に開催

去る1月30日(水)、ホテルつるやにおいて、森副知事、久住市長、早川県議会議員、池田県産業労働観光部長はじめ多数のご来賓の方々をお招きし、総勢220名余の参加により、見附商工会新春企業交流会を新春の幕開けに相応しく、盛大に開催することができました。

小林会長は、「今年の干支は巳、動物にあてはめると「蛇」蛇は脱皮をすることから「復活と再生」を連想させ「神の使い」として崇められます。「復活と再生」に向け大いにチャレンジしましょう」と挨拶。

続いて、ご来賓を代表して、森副知事、久住市長、早川県議会議員よりご挨拶を頂戴し、産業振興事業をはじめとして海外展開事業に対して、熱いエールをいただきました。

さて、今回のメインイベントは、三國谷前金融庁長官による新春特別講演会です。「新春講話～リーマンショック以降の状況など～」と題し、日本経済の流れについてご講演いただき、参加者一同熱心に耳を傾けました。

<講演要旨>

1979年、右肩上がりの時代に三条税務署長に就任され、当時は大らかな時代であったと振り返る。1989年ベルリンの壁が崩壊し、世界経済が一体となる。これは単に市場が一体化しただけではなく、労働力を含めて国際化した流れに入ったことである。日本ではバブルが崩壊し、資産価値が大きく減ったため、そこから回復するには大きく時間がかかる。2008年9月リーマンショックが起これ、これを境に経済が変わってきている。日本は、日本の金融危機を向かえセーフティネットの枠組みを整備する中で乗り越え、世界の金融危機を向かえた。日本国内の対応だけではすまず、国際化に対応し世界の中で勝つ対応を考える必要性が生じる。日本の金融危機は、民間リスクを国が引き受けることによりしのいだが、国の方の問題にすると財政がいかに大変かということである。欧州の債務問題は、金融の問題と財政の問題が重なったことが大きな要因であり、EUの成長力より東南アジアの成長力が高いため、なおさらEUは厳しい状況である。少子高齢化の問題を考えたとき、ドイツは日本から少し送れて、中国もいずれは日本と同じように、ブラジル・インドも少子高齢化に向かう。日本が国力を維持していくためには、経済生産性を上げ、教育・技量を踏ん張る必要があり、学ぶ国がないため自ら開拓していく必要がある。世の中はいつも変わっている。すぐに対応できるかということ、いつもラグがある。変わったと認識できるまでのラグ。対策をうつためのラグ。効果が現れるまでのラグ。これは、政府や地方公共団体等のことだけでなく、どこの会社でも事業でも同じことがいえる。

日本の経済・金融を見ても、この時代は良かったと手放しでいえる時代はそんなに長くなく、むしろ危機の連続を苦しみながら乗り越えてきている。一つ一つの企業、個人個人が強くなると世界と対抗できない。日本の底力はある。どう伸ばしていくかが大事である。



MITSUKE KNIT パリ展示会出展

【出展概要】

MITSUKE KNIT は始めてフランス・パリで毎年開催される展示会「WHO'S NEXT 2013」(2013/1/19~1/22)に出展いたしました。

今回は、MITSUKE KNIT としてレディース 6 ブランドの構成により、41 アイテム 78 点(各色展開)を展示し、PR しながらバイヤーと商談を行いました。

商談した多くのバイヤーが、カシミア素材のセーターやニットのバック・スカーフ等に興味を示されました。また、「各ブランドのフルラインの情報を知りたい」「次回の Spring&Summer collection の情報が欲しい」等のご意見もいただき、6 ブランドとも好感触を得ることができました。

素材の点では、欧州のバイヤーがカシミアに興味を示し、中東・アジアのバイヤーはシルクに興味を示すなど地理的要因も感じ取ることができました。

【展示会について】

残念ながら、展示会開催期間中、パリは大雪に見舞われ、近隣フライトが 4 割もキャンセルとなるなど、悪天候が続きました。

WHO'S NEXT 主催者プレスでは、今回の来場者総数は 58,738 人、うち国内バイヤーは 63.5%(日本からのバイヤー1,800 人程度)と発表されました。大雪の影響もあり、前年同月開催比で訪問者数は 12%減とのことでした。

プレス発表は、以上のとおりですが、「本当に来場者が少なく、この雪では仕方がないか」といったところが初出展の感想です。WHO'S NEXT 以外の同時期に開催されたパリのサロンも、天候の影響により閑散とした状況だったそうです。

【お取引について】

海外バイヤーとの取引は、メーカーが行うとの方針に基づき、値ごろ感のある価格を設定したことが功を奏し、概ね受け入れられました。

素材・デザインの打ち出しとともに、価格の優位性を打ち出すことができたことが、好評価につながったと思っています。

初出展にして、複数のオーダーをいただくこともできました。各バイヤーに対して、引き続きアプローチを行い、MITSUKE KNIT を大きく展開していきたいと思えます。

【MITSUKE KNIT と地域活性化】

MITSUKE KNIT は、日本の若い新進気鋭のデザイナーと産地ニッターがコラボレーションする事業です。この事業は、地場産業の活性化を通して街全体の活性化を狙うための事業です。MITSUKE KNIT を通して、見附を大きく PR するとともに、若い人たちが誇りを持てる産業に、そして若い人たちが集うことの出来る街にするための一つの試みです。ファッション産業として、またファッションナブルな街として、世界に羽ばたく MITSUKE KNIT とともに新しい街づくりを推進したいと思えます。

公共工事は欠かせない産業

小規模企業振興委員 木津信明

地震、水害と災害が続く日本に大変憂いを抱いております。1995年の阪神淡路大震災を朝6時からテレビでまさかの大惨事に愕然としてこんな事が起こるのかと自分の目を疑った事を今でも記憶しています。当時は青年会議所会員でしたので被災地へ行くために準備していたのですが、受入場所がないと言うことで行けませんでした。その後の復旧復興の早さにはさすが日本の建築、土木の技術の高さに驚き、黙々と昼夜を問わず従事された方たちには敬意を表します。その後、刈谷田川が決壊するとは夢にも思わなかった2004年7月13日の大水害。この時昼のテレビ放送で凄惨な被害状況を知って従業員を帰した。こういった危機感の経験がない中、後日目のあたりにしたのは、おびただしく恐ろしい程の泥の海だった。後日大勢のボランティアの方々が暑さの中懸命に泥出し置の搬出等の片付けている姿が今も焼き付く。急ピッチな復旧でやっと冬が越せるかと思っていた秋の10月23日の午後6時頃に起こった中越大地震。まさかまさかの出来事がこうも我々を襲うのかと神様に願うばかりでした。翌日の朝からひっきりなしに来る電話。屋根瓦が落ちた、棟瓦が落ちたという修理依頼の電話でした。とにかくブルーシート掛けに奔走しました。その後も続き何百件という依頼になりました。瓦店もみんな高齢化や後継者不足それと仕事不足で人員が不足してました。一刻も早い皆さんの依頼に答える事が出来ない事に、申し訳ない気持ちや自分の不甲斐なさを感じていました。とにかく雪が降っても雨漏りしない様に養生し冬を越せる様になってやっと落ち着きました。その後は全国からの協力、多大な義援金等の支援、最後に国の絶大な復旧復興のお陰でこの地域は、元の生活を取り戻す事が出来ました。今、我々が経験したことよりまだ凄惨な地震が東北を襲った東日本大震災は、復興に未だスピードが上がりません。違いは、政権が違った事くらいです。日本の威信を懸けてでも一刻も早い復興を行わなければ、経済大国という評価に値しくなくなります。壊れた物は早く直さなければならぬし考えていてもしょうがない事なのです。生産をしなければ、仕事をしなければ普通の生活を取り戻す事が出来ないと思えます。エコやゴミの問題を考えると復興の足かせになって難しい事かもしれませんが、培った知識や経験で知恵を出し合って解決して行くことが豊かな国、地域になっていくのではと。近頃、無駄な公共工事が多いとマスコミや国会で問題になっています。無駄は足りなければ役に立たないし、余る位でないと安心出来ません。丁度いい公共工事なんてあり得ないと思えます。産業は、仕事が不足してくると衰退して行き、培った技術や経験が途切れてしまいます。途切れば、また一から出直しです。雪が降ると道路がきれいに除雪されているのが当たり前かのように思いがちですが、これも建設産業の人たちのお陰です。この人たちがいなければ出来ないことです。将来に付けを廻す事ばかり心配しているより、より安全安心な地域や街をつくり大勢の人たちからよろこんで住んでもらえる地域を残して行くことが、次世代の人たちにも理解を得ると確信します。7.13水害は、100年に一回と言われていました。平成23年7月30日の新潟・福島豪雨では見附今町中之島地域はいち早く地域の皆様方よりご理解とご協力で遊水池の整備や川の直線化のお陰で、農家の方には大変な思いをされましたが、市内および刈谷田川下流域は水害を防ぐ事ができました。これも地域を上げて連携し、先の教訓を生かした強靱化による防災、減災の効果だと思えます。幾度と水害に見舞われている方たちは、心配で仕方がないのではと思うと、経験と教訓を生かし改修、改良を優先し、早期の解決をと声を上げたい事でしょう。堅強に強化して安全で安心して気持ち良く暮らしていける地域づくり「コンクリートが人を守る」を実践していただきたいものだ。これからもこの地域の絆を大切に末永く発展して行く事を願うばかりです。